

「文化を日本外交の中心に置くべき」言い続け継続中



元文化庁長官
近藤文化・外交研究所代表
Kondo Seiichi

近藤誠一

Kondo Seiichi

- 1971年 東京女子大学教養学部教養学科イギリス科卒業
- 1972年 外務省入省
- 1973年 英国オックスフォード大学留学
- 2003年 外務省文化交流部長
- 2006年 ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
- 2008年 駐日ドイツ特命全権大使
- 2010年 文化庁長官(～2013年)
- 2013年 近藤文化・外交研究所設立
- 2016年 瑞宝重光章受章

聞き手: 上野由美子(右)

古代オリエントガラス研究家。UCL(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)考古学研究所在籍中。2012年国際日本伝統工芸振興会の評議員。ARTP副団長として王家の谷発掘プロジェクトに参加(1999年～2002年)。聖心女子大学卒業論文『ペルシアガラスにおける円形切子装飾に関する考察』、修士論文『紀元前2000年紀に於けるコアラガラス容器製作の線紋装飾に関する考察』ほか、執筆著書多数。

外務省時代から一貫して「文化を日本外交の中心に置くべき」と言い続け、「世界文明フォーラム」の開催など、文化外交を推進してきた近藤誠一氏。2010年、2013年は、初の外交官出身の文化庁長官を務めた。退官後、近藤文化・外交研究所を設立。海外での幅広い人脈を活かして、文化交流活動や、日本の伝統的工芸の発信、認知度向上のために尽力している。

——日本の伝統工芸品は、伝承の危機にある分野もあります。海外で評価された作家が逆輸入的に日本でも人気が出る現象もあり、作家さんたちがその目を海外へ向けたいと思いますが、なかなか機会がないと聞きます。そうですね。安価な工業製品に押されて工芸品が売れない。後継者がいない。師匠だって将来に不安がある。道具や材料が手に入らなくなってきた。ずっと叫ばれている危機です。それならば海外へと考えるのは当然で、成功している人も少なくありません。ヨーロッパでも、

パリのギメ博物館、英国のセインズベリー日本芸術研究所、その所長で大英博物館のキュレーターでもあるニコル・クリッジ・ルマニエル教授などは、日本の工芸を芸術として高く評価してくれています。しかし、厳しい話もあります。以前オランダのユトレヒトの美術展で、伝統工芸の展覧を断られたことがあります。作家は人間国宝で、現地の日本大使館から外交ルートでの後押しもされましたが、それでも実現しませんでした。北斎などのアートは歓迎だがクラフトは要らないというのです。日本の工芸に対する評価はこの程度かと、危機感を持ちました。日本人には、器や道具にも用の美

ALSACE-JAPON Un projet de centre artistique pour l'ancien lycée Seijo

Au milieu des vignes, tout l'art du Japon

Vides depuis 2005, les locaux de l'ancien lycée japonais Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, font l'objet d'un projet d'envergure: la création d'un centre de restauration d'objets d'art japonais possédés par les musées européens. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.

Masche d'un katana (ancien japonais) de collection. PHOTO: J. K.

Le vin est un produit agricole précieux. À l'instar de la vigne, il nécessite un soin particulier. C'est pourquoi le projet de restauration de l'ancien lycée japonais Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, est un projet d'envergure. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.



Projet de centre d'artisanat japonais au lycée Seijo, à Kientzheim, pour servir les musées européens.

Un lieu d'inspiration au cœur de l'Europe

Les objets d'art japonais sont des témoins de la culture et de l'histoire. Ils sont précieux et doivent être protégés. Le projet de restauration de l'ancien lycée japonais Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, est un projet d'envergure. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.



Seiichi Kondo. PHOTO: J. K.

LE LYCÉE SEIJO, FERMÉ À L'AUBE DE SES 20 ANS

Au plus fort de son activité, le lycée Seijo de Kientzheim, un établissement privé fondé en 1966, accueillait 180 élèves japonais. Implanté dans l'ancien presbytère catholique des religieuses de Saint-Corneille, il ouvre ses portes en 1966. Sa vocation: élever les enfants des diplomates, chefs d'entreprise, cadres et autres enseignants japonais travaillant en Europe. Il s'agit d'un établissement bilingue japonais-français. Mais, l'année en cours, les effectifs commencent à diminuer. Pour les responsables du lycée, les raisons sont multiples. La crise économique qui impacte la bonne marche des entreprises, la baisse de la démographie et la mondialisation, en Europe, de lycées comparables.

affidés sous « Front Tokami ». Et c'est 1966 dernier que tout s'est accéléré, avec deux rencontres: celle d'un homme d'affaires, ancien de chez Goldman Sachs, et celle d'une femme d'affaires, ancienne de chez Goldman Sachs. Ils ont décidé de créer un lycée japonais. Le lycée Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, est un projet d'envergure. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.

Dans une plus large perspective, Seiichi Kondo veut à l'instar de son père, un homme d'affaires japonais, créer un centre d'artisanat japonais au lycée Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, pour servir les musées européens. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.

Percevoir le lien particulier entre le Japon et l'Alsace n'est pas évident. Mais, c'est un lien qui existe. Le projet de restauration de l'ancien lycée japonais Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, est un projet d'envergure. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.

du bâtiment, mais aussi l'accueil de visiteurs qui pourront voir le processus de restauration avant de passer à une visite de la région. Le lycée Seijo, au milieu du vignoble de Kientzheim, est un projet d'envergure. L'idée est de rénover les lieux et d'accueillir des artisans d'exception et des manifestations culturelles. Reste à trouver 4,2 millions d'euros.



En 2005, le lycée Seijo fermé. PHOTO: J. K.



En 2005, le lycée Seijo fermé. PHOTO: J. K.



En 2005, le lycée Seijo fermé. PHOTO: J. K.



En 2005, le lycée Seijo fermé. PHOTO: J. K.

DNA COLMAR ET SA REGION

Vers un centre culturel japonais ?

L'ancien lycée Seijo de Kientzheim accueillera-t-il un centre culturel japonais ? Un projet est à l'étude en ce moment. Il ne peut pas le premier. Depuis la fermeture des portes de l'établissement au printemps 2005, plusieurs propositions ont déjà été avancées. Sans succès.



Le lycée Seijo de Kientzheim accueillera-t-il un centre culturel japonais ? Un projet est à l'étude en ce moment. Il ne peut pas le premier. Depuis la fermeture des portes de l'établissement au printemps 2005, plusieurs propositions ont déjà été avancées. Sans succès.

フランスのデュエール・ヌヴェル・ダール紙に紹介された、ぶどう畑の中に日本文化の拠点ができるという記事上・2017.3.26 右・2016.9.7

を感じる感性があります。独特の自然観や繊細な美意識、目に見えないスピリッツを味わう素晴らしいものです。でもその価値観をそのまま向こうに持っていったら通用しないと考えた方がよいと思います。

——どういったアプローチをしたら良いですか。

タペストリーや磁器など、伝統工芸はヨーロッパにもあり、それらはアートの一つと認識されています。そして、絵画、彫刻、演劇、音楽など他のアートとの競争は激しく常に切磋琢磨し合っているのです。日本の工芸も現地のトレンドを見ているプロデューサーやデザイナーなどの視点を取り入れ、伝統工芸の高い技術や精神とコラボした、KÖGEEとしての魅力をアピールした方が受け入れられやすいと感じます。

そうしたきっかけにもなるよう、ギメ博物館、ルーブル美術館、ニコル教授らとも手を組みながら、日本文化の理解浸透とマーケットの拡大につながる、起死回生の策を練っているところです。

フランス・アルザスに 日本の伝統文化の拠点を

——計画中のアルザスの話を聞かせていただけますか。

フランスのドイツ国境に近いアルザス地方のキンツハイムに、アルザス成城学園という日本人学校があります（1986年〜2005年）。その寄宿舎が使われずに残っていて、私が外務省の文化交流部長をしていた時に、隣地にある欧州日本学研究所のクライン所長が、隣同士で施設を活かして、両国のために何かしたいというお話がありました。03年の11月だったと思います。アルザスは日本びいきで、閉校したとはいえ成城学園があった場所を単なる観光地にはしたくないとも。すぐできることとして、国際交流基金に頼んで、日本の幾つかの大学が夏休みに行ってセミナーをやっています。

文化庁長官の時にクラインさんが再び日本に来てくれました。そのときは具体的にじゃなかったのですが、昨年の夏に急に話が進んで、改築案を示したところ、土地は1ユーロで譲り受ける、そのかわり数年以内にしつかりしたものを作る、ということに合意したところでした。

——どういった事業をやっていくのですか。

実はヨーロッパには、修復できないで眠っている日本の工芸品が大量にあるのです。それらの修復を請負い、展示したりオークションに出したりする。コレクターも喜ぶし、マーケットの拡大にもつながります。

修復にあたるのは日本から行く工芸作家です。高い技術を披露しつつ、ヨーロッパのアーティストやプロデューサー、デザイナーたちと交流できます。それと、これが肝心なのですが、修理するところを見せたり体験させたりするのが、音楽の話になりますが、フランスのナントで始まった世界最大級のクラシック音楽祭を、05年に日本に持ち込んだ「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」が毎年5月に開催され、一番面白いのがマスタークラスという公開レッスンなんです。100人くらいが参加して一流の音楽家が学生を指導する。1時間のうちに学生が技術やスピリッツを吸収して、みるみる上達していくんですよ。指揮者の小林研一郎さんも、楽曲を作り上げていく過程を一般に見せるイベントを毎年やっています。最後に仕上がった演奏を聞くと感動的です。

——私も当連載の取材ですっかり伝統工芸の虜（とら）になりました。体験や見学はファン拡大には大切ですね。

私は「結果よりプロセス」とよく言うのですが、何でもネットで検索して知った気になると実際は違っています。日本の工芸品がどんなにすごいプロセスを経てできているのか、ヨーロッパの人にぜひ見てほしいですね。自分で焼いた器は愛着があって、こはんがおいしいですよ。一流作家の作品はプロセスのすこさを感じられる

からこそ、使うと心が豊かになるんです。

アルザスは西ヨーロッパの真ん中で、スイスのバーゼルやドイツのフランクフルトと近く、パリへも2時間程度。日本の発信拠点としてはもってこいなんです。

——日本のアニメと美術館がコラボをした「エヴァンゲリオンと日本刀展」が世界中で人気ですが。

特にフランスでは、日本のアニメやヴォーカロイドの初音ミクなどがすごい人気ですね。日本に興味を抱く入り口としてはそれでも良いと思います。実際、新聞記事にも載っているように、いまヨーロッパで一番人気の日本の工芸は刀剣類なのです。最初はそれらの修理を中心に、持続可能な収益を確保したいと考えています。

——いつごろオープンする予定ですか。

2020年を目指しています。その過程として、来年パリで開催する「ジャポニズム展」において、職人の修復技術などを見せるなど、アルザスにつながる動きをしたいと思っています。「匠（匠）アルビバン・ドウ・ジャポン」という一般社団法人を立ち上げ、修理の事業計画や、研修、ワークショップ、展示会、芸術家のサロンなどを盛り込んだ年間計画も作成しています。「生きた芸術」というコンセプトで、伝統文化のスピリットを感じ取り、意見を交わしながら先人からの知恵を学び、それらを現代に生かしていく契機となる場になりたいです。

芸術文化が与える、ひらめき、の力は、経済や政策にも革新を生み出します。大きなスポンサーを動かすために、工芸関係者、学者、職人を多く抱える自治体などからの支援を取り付けているところです。

ストラスブル大学の日本語学科の学生は200人もいますが、それを就職に活かしていません。うまく展開して彼らの就職にも寄与したいですし、第2段として、日本にもそういう施設を作って相互交流をしたいと考えています。